

第3回東大阪市文化芸術審議会（第6期）

開催日時	令和5年3月3日（金）10時から17時のうち1時間
会 場	東大阪市文化創造館
内 容	事業視察・評価シート作成
出席委員 8名	中川会長、辻副会長、奥田委員、高岸委員、時岡委員 中島委員、弘本委員、藤野委員、森口委員、由井委員
欠席委員 2名	呉委員、森委員（市民文化芸術祭実行委員長）
資 料	・視察事業概要 ・委員の所見 ・第33回東大阪市民文化芸術祭パンフレット

【視察事業の詳細】

①事業名	第33回東大阪市民文化芸術祭
②実施主体	・東大阪市民文化芸術祭実行委員会 ・東大阪市 ・東大阪市教育委員会 ・（共催）東大阪市文化創造館
③開催日	令和5年3月3日(金)～5日(日) 10時から17時
④会 場	東大阪市文化創造館
⑤内 容	日頃の文化芸術活動の成果を発表する場として、毎年3月の金曜日から日曜日までの3日間開催する一大イベント。プログラムについては「舞台」と「展示」の2部門からなり、本市を愛する人であればどなたでも参加が可能。今年で33回目となり、市民の文化交流の場として広く定着している。 事業実施にあたっては、市民公募で構成される実行委員会を中心に会議を10回程度開催。
⑥ターゲット	東大阪市民
⑦施策の柱	市民文化 (1) 文化芸術に親しむ環境づくり 市民文化 (2) 文化施設の公共的役割の徹底 市民文化 (5) 誰もが文化芸術に親しむ環境づくり 都市文化 (6) 文化財・地域の文化的資源の活用と外部への発信 都市文化 (8) 文化芸術を活かしたにぎわいづくり

【委員の所見】 本事業を評価する点

評価する点

<展示・舞台の内容>

- 展示の部は作品数もほどよくじっくり見られ、舞台の部では美しい照明の大舞台での演技に拍手であった。
- 学校教員の授業や取り組みのヒントになるようなものも数多くあった。
- 舞台の部における幅広い演目
- 花の空間演出（良い場所で展示され効果がある）
- 展示の部が充実していて見応えがあった。特に、東大阪工芸協会の出品作品には圧倒されたが、人間国宝の作品もアマチュアの展示と同じく並んでいるというのが東大阪らしいと思った。
- 大ホールでの参加者が少なかったが、布施警察防犯係によるデモンストラーションは、有意義だった。
- 東大阪工芸協会の作品は高度な技術を感じさせた。いくつかのフォトクラブの作品は多様性があり楽しめた。

<会場（文化創造館）>

- 多様なジャンル展示発表や舞台発表が、上質な空間で鑑賞できた。
- 1階展示は、まちライブラリーカフェと一体となり、雰囲気が出る。創造館をより親しみやすい施設にして、認知度を高めていく点でも役立っているイベントではないか（市民文化2）。
- 会館全体を使ってされているので見やすく移動しやすくて良かった。

<実行委員会とその連携>

- ユニフォーム姿の実行委員の方々がまず目に留まった。この日のために何度も会議を重ね、努力なされたであろう熱意を感じた。
- コロナ禍に抗し、文化創造館のような大型施設での公募・市民参加型の全館イベントを実行委員会方式で開催する意欲とパワー、ノウハウは高く評価できる。参加者（団体）数が展示で66、舞台は3日間で80というのは、この種イベントとしてはかなり多い。それでも舞台進行など運営はスムーズな印象で、30数年に及ぶノウハウの蓄積、継承の賜物だろう。初日の入場者も平日にしては多く、受付担当者やイベント参加者たちと交流する姿は「誰もが文化芸術に親しむ環境づくり」（施策の柱・市民文化1, 5）の趣旨にかなっている。
- 市と施設管理者、民間団体が協力して開催されるイベントとして、規模も大きく、市民が文化芸術に触れる機会としては重要なものと感じた。
- 学生なども含めて多くのボランティアスタッフが関わっておられ、マンパワーの凄さを感じた。また、そのことも文化芸術活動の啓発に繋がるので

評価する点	<p>はないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●参加者や実行委員を公募し、関係団体の広告や協賛を広く集めて実施されている点や、文化創造館を市民による表現の舞台として、美術・書・工芸・文芸・茶道・花道等から、舞台芸術・芸能まで幅広い表現に携わる方々が一同に集い交流されている点で、テーマや問題意識を共有して発展させていけば、市民と文化芸術をつなぎ、さまざまな課題解決の可能性を育む、プラットフォームになり得るものとして評価できるものと思う。 <p><市民の発表の場></p> <ul style="list-style-type: none"> ●開催2日目(土)にも知人が舞台の部で出演するため見に行ったが1日目に比べて沢山の方が来館され、にぎわっていた。出演した本人からは、こんな良いホールの舞台に立てて嬉しいという声も聞くことができた。 ●舞台・展示とも、誰もが参加できる自由性 ●幅広い年齢層が参加 ●舞台発表のレベルはさまざまだが、多くの出演者が新装大ホールの舞台上で演じる緊張とともに喜びも感じているように見受けられる。 ●市内の多くの方が、それぞれに取り組まれている文化・芸術活動の成果を発表されており、素晴らしい作品が多く見られた。このような機会があることが、文化・芸術活動に取り組まれている皆様の励みになると思った。 ●舞台の部では、設備の面でも素晴らしく、このような舞台を使って発表できる機会は、他ではなかなか無いのではないかと思う。出演者のやりがいに繋がると思う。 ●老若男女問わず、また団体だけでなく個人でも様々な方が発表されており、自由な表現ができる場だと感じた。 ●参加されている方々や、その関係者の方々にとっては発表の機会を得られて喜んでおられたのではないかと思った。 ●あらゆる世代の方々が出演者出品者として参加されている事がわかった。一昔前のイメージとしては「熟年以上の方々のグループが参加される会」であったので、イメージが払拭され、文字通り市民文化芸術祭であると思った。
-------	---

【委員の所見】 本事業の留意すべき点

留意すべき点

＜展示等の仕方＞

- 展示会場の団体名などの表示カード紙が上質でよいものなのに、テープでの貼り方に少し残念な感じがした。
- 展示パネルに矢印の貼付があったが、何を示しているのかわからなかった。
- 展示室の通路が少し狭いように感じた。行き来する人で詰まってしまう場面もあり、車いすの方などが利用される際にはゆっくりと見ていただくことができないのではと思う。
- 小さな子どもを連れて来るには、作品を壊してしまわないかと気を遣ってしまう。
- 体験できるブースの場所が少しわかりにくく、数も少ないようにも感じられたので、入り口近くに設置して、より多くの方に文化芸術活動を体験してもらえるようになればさらに良いのではないかなと思う。

＜企画・実施・検証＞

- ワークショップ型をふやし、市民の参加を図る
- 参加者や実行委員を公募されているとはいえ、関係団体や関係者と何らかの接点がない場合、初めての人は積極的に参加しづらい可能性もある。参加しやすい環境や情報提供の方法を考える必要があるのではないかな。
- 様々なハンデを抱えた人やマイノリティも参加しやすい企画も考える必要があるのではないかな。

＜若年層・親子の参加＞

- 子どもの参加の可能性
- もっと積極的に若年層や子育て世代を巻き込む必要があるのではないかなと感じた。

＜広報＞

- 入場者が、出演団体・個人の関係者、家族等に偏る傾向があるため、「文化芸術を活かしたにぎわいづくり」（都市文化8）のためには、一般の入場者を増やしたい。
- 大ホールで、全てのパフォーマンス・アートを上演しているが、客入り率が数%という演目があり、演者と観客との暗黙のコミュニケーション密度が保てない。着席場所を指定して、中央部に集める等してはどうか。
- 視察をしたのが平日(金曜日)の午前11時だったから来場者が少なく感じたが、(土)(日)は天気も良く来場者が多かったのかもしれないが、まだまだこの「取り組み」を知らない市民が多いと思うので、さらに周知を図ると良いのでは。

【本審議会から今後の本事業への提言等】

〈広報面〉

- 事前にどのような舞台発表があるのか知れると良い。
- 若年世代・小中学生への周知のため、可能な範囲で写真を多くしたHP公開をし、QRコードから見られるようにしてはどうか。
- さらに多くの方に参加してもらえるような広報展開。障害福祉の団体からも、ぜひとも参加したいと思う。

〈地域や学生(学校)との連携・人材育成のために〉

- 大学生達の舞台参加も見られたが、この分野をさらに広げる。
- 大学からの秋の大学祭等でのアピールを行ない、市民の参加を図り、交流につなげる。
- 各種アートの多彩さに感心するが、これらの優れた人々の活動と小・中・高校生とのつながりを求めて欲しいと思う。特に文科省が学校のクラブ活動を地域との協働に求めている現在では緊急の課題である。
- 実行委員会の充実を図り、文化芸術を支える人材育成につなげる。
- 高齢者施設や福祉施設の入所者・通所者の方々や学校・園の生徒や先生、学童保育やこども食堂の関係者等を招待するなどのアプローチを行ってはどうか。
- 小学生から大学生の若い世代や地域を巻き込んだものとするために、もっと市や教育委員会と連携を強化する必要がある。

〈イベントの内容・テーマの設定など〉

- 分野が違う複数団体によるコラボ企画を公募するなどしてこの場でしか見られないものを発信する。例えば、音楽なら邦楽と洋楽、舞踊なら日舞とクラシックバレエの組み合わせなど。地元の大学サークルにチャレンジを呼びかけるなど。
- イベントにテーマを設定するのも一つの手法。テーマは地域密着か、例えばSDGsといった時代を象徴するものなどが考えられる。
- 毎年社会動向を反映した総合テーマを設定して、そのテーマを軸に作品づくりや舞台構成などを考えてはどうか。
- 周辺地域の店舗等を作品展示やパフォーマンスのスペースとして活用しまちづくりとの接点を広げてはどうか。
- 文化創造館のデッキや芝生広場など、外部空間を活用した、作品のチャリティ販売や、まちライブラリーと市民文化芸術祭の魅力的な連携プログラムなどを考えられてはどうか。

〈その他〉

- 何よりも、この文化芸術祭を33回と継続して開催されていること自体が素晴らしいことだと思う。今後も、ぜひとも継続して開催していただき、東大阪市の文化芸術活動の発展に繋げていただきたい。